

月 日	実施した事業内容	参加人員
5月1日 (水)	○顔合わせ ○活動計画の作成	8人
8月7日 (水)	イメージと表現 「子どもの表現が語りかけるもの」 ～講演と事例研究～ 会場：上高井教育会館 講師：米持 絹子先生 ・長野県松本ろう学校校長 ・教育カウンセラー協会 上級カウンセラー ○午前～昼食 講義及び事例研修 ①講義「子どもたちとどう向き合うか」 ②バウム、KFD事例をもとにご指導いただく ・会員が持ち寄った子どもの表現作品を通して、ご指導いただいた。 ・子ども個々の特性を知りそれに沿った支援を行うこと。 子どもの見方感じ方を知ることが大事である。 ・「表現しない」ことも子どもからの発信であることを心せよ。 ・自分の関わりの評価として子どもたちの表現を見ることも大事である。 ○午後 KFD(動的家族画)演習 ・KFDを実際に自分たちで描き、シェアリングをする。 その後KFD分析の視点から講師の指導を受けた。	9人
2月 日 (土) 予定	*まとめの会 ・投影法演習 ・実践事例発表の会	人

「表現は嘘をつかない。」これは同好会を長年ご指導いただき昨年急逝された東城久夫先生が、毎回頭にされた言葉です。どんなに取り繕っても、表現には、その人の本人すら自覚でしない思いが表れていると。「子どもの心を感じる会」では、子どもの表現から「心」を聞き取る感性を磨きたいと願って研修を進めてきました。

今年度は、昨年度に引き続き松本ろう学校の米持絹子校長先生を講師にお迎えし、子どもたちの表現が語りかける「心」に向き合いました。「場から人へ」と変わってきている特別支援教育についてお話をお聞きし、特別な支援は特別なお子さんだけに必要なものではなく、どのお子さんでもどんなときにでも必要な支援を受けられるものであること、そのために、「支援を求めている子どもの心」を聞き取ることが大事であることをあらためて感じました。

さらに参加者が持ち寄った子どもたちの表現を前に、個々の子どもがどんな発信している思いを各々が感じたままに語り合い、米持先生のご指導をいただきました。明るく元気なお子さんの明るい色彩で表現された描画に、そのお子さんの劣等感情垣間見えるというお話は、衝撃でもありました。

昨年度までの「風景投影法」に加えて「動的家族画法」の演習も行いました。自分自身の心に向かい合ったりそれを仲間の前に出したりすることは大変厳しいことですが、子どもたちの心を感じるにはまず自分の心に正面から向き合うことも必要だと思います。会では投影法の研修を重ねています。子どもたちが語りかける表現から感じ取るだけでなく、表現する子どもの心を体験的に感じることも大切です。受け止めた思いを、どのように子どもに返していくか。今後は投影法の基礎的な研修に併せて、それを基にしたアセス

メント研修ができればと考えています。

(会長 手塚 里子)